

ビスフェノール A の食品健康影響評価の進め方について

1. 背景

- (1) 平成 20 年 7 月 8 日付けで厚生労働省から依頼があった「ビスフェノール A がヒトの健康に与える影響について」に係る食品健康影響評価については、同年 7 月 10 日に開催された第 246 回食品安全委員会において、器具・容器包装専門調査会において審議することとされた。
- (2) ビスフェノール A の毒性は、特に、生殖発生に関する報告が多く、近年では、動物での低用量における知見も多く報告されているため、本評価においては、それら知見に対する考え方や動物試験結果のヒトへの外挿性など、特に生殖発生毒性に関する評価が重要であると考えられる。
- (3) 生殖発生毒性に関して重点的かつ効率的な審議を行うためには、当該分野の専門家として、器具・容器包装専門調査会の専門委員に加えて、他の専門調査会に属する専門委員や外部の有識者の参加が必要であると考えられる。
- (4) そこで、ビスフェノール A の食品健康影響評価のうち、生殖発生毒性等に関する事項については、以下のとおり生殖発生毒性等に関するワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置して審議を行うこととする。

2. 運営

(1) WG の設置

器具・容器包装専門調査会の下に WG を設置する（下図）。

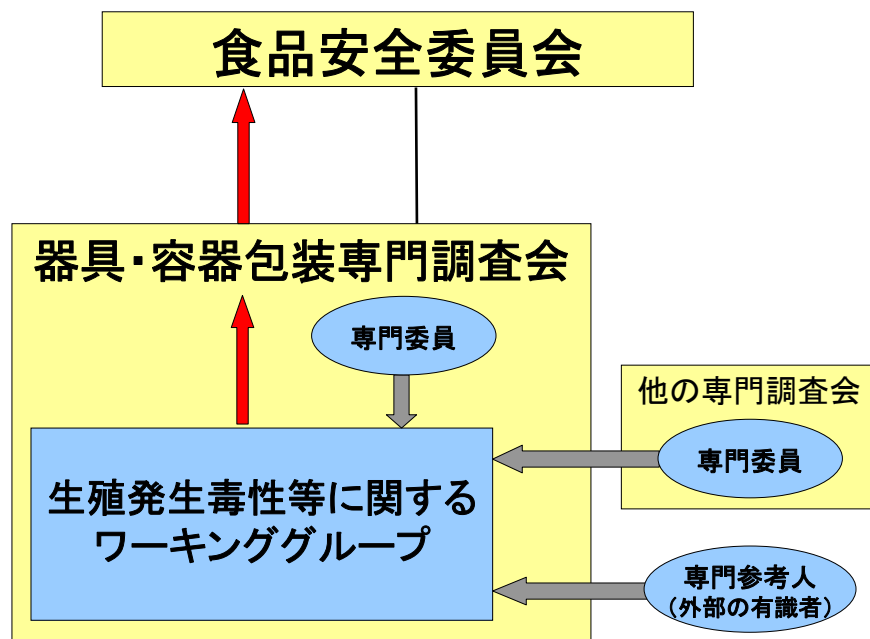
(2) WG の構成（別紙）

WG は、器具・容器包装専門調査会及び他の専門調査会に属する専門委員から構成する。また、器具・容器包装専門調査会の座長が必要と認めた場合には、専門参考人として専門委員以外の有識者の参加を求める。

なお、WG は、構成する専門委員の互選により座長を置き、座長が議事を司る。

(3) 評価結果の取り扱い

WG の評価結果は、器具・容器包装専門調査会の了解を得て、同専門調査会の評価結果とする。また、WG における検討状況は、適宜、器具・容器包装専門調査会に報告する。



(別紙)

生殖発生毒性等に関するワーキンググループ名簿

(50音順、敬称略)

□器具・容器包装専門調査会 専門委員

井口 泰泉

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
岡崎統合バイオサイエンスセンター教授

渋谷 淳

東京農工大学大学院共生科学技術研究院准教授

長尾 哲二

近畿大学理工学部教授

那須 民江

名古屋大学大学院医学系研究科教授

広瀬 明彦

国立医薬品食品衛生研究所
安全性生物試験研究センター総合評価研究室長

◎山添 康

東北大学大学院薬学研究科教授

遠山 千春

東京大学大学院医学系研究科教授

□農薬専門調査会 専門委員

納屋 聖人

独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門主任研究員

□専門参考人

青山 博昭

財団法人残留農薬研究所毒性部部長

岸 玲子

北海道大学大学院医学研究科教授

堤 治

国際医療福祉大学大学院教授、山王病院院長

◎：座長